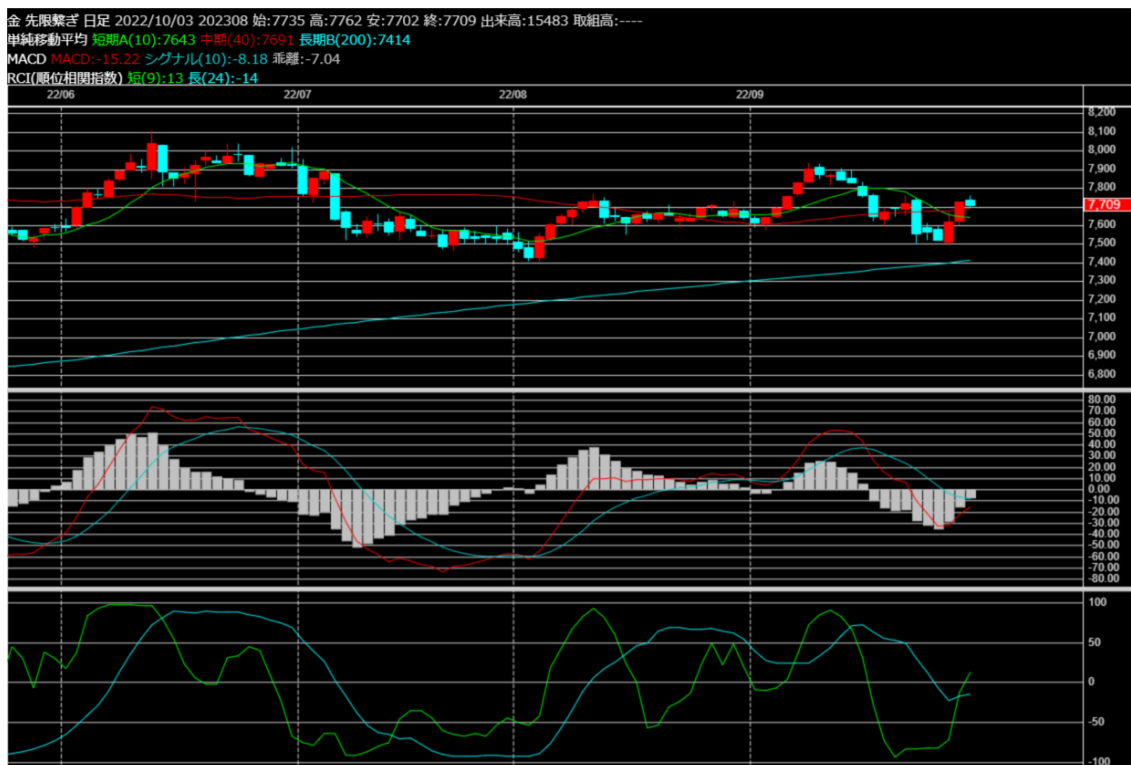


＜金標準先物、核使用のハードルが低下したリスク逃避需要・・・＞



(出所：オアシス)

英国政府の 25.5 兆円規模の経済対策と 1972 年以來の減税の発表を機に大規模な英国の政府債務が管理不能な状態に陥るとの不安を背景に英国 30 年債の金利が 1998 年以來の 5% を超える動きを見せている。そのためイングランド銀行は国債市場の崩壊を防ぐため 10 月 14 日まで毎日長期国債を無制限で購入する劇的な形で介入に入っている。

その動きを受けて一時金標準先物は 7495 円まで下値を模索したが、ポンドや英国債の巻き戻しから週末には 7762 円まで戻りを見せるなど、財務省の円買い介入以前の水準まで戻している。

特に週末はウクライナ情勢で、プーチン大統領はウクライナ 4 州を一方的な併合を発表し、ウクライナ政府は NATO 加盟を再度持ち出している。また G7 は新たな対ロシア制裁処置を発表するなど、地政学的なリスクの高まりが強まる中で、ロシア併合は戦術核の使用のハードルが下げる事を意味しており、核のリスクが金価格の下値を支える動きになると思われる。そのため金標準先物では財務省の円買い介入に伴う円高でも一時的な下値追いになるなど 7500 円以下を試す事は難しい状況に思え、今しばらく 7500 円～7900 円のレンジ相場を続けると予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD では **MACD** が上昇しながら、下げ止まっている **シグナル** を上回る動きを見せ、RCI でも **短期** が上昇し、**長期** は下げ止まるなど強気をサインが発生している。特に日足が **40 日移動平均線** を超えるなど再度 7900 円に向けた動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,695,000 円(2022 年 10 月 3 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 10 月 3 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>